

2019年度プロジェクト研究所業績報告書(中間報告)

プロジェクト名	ソーシャルデザインリーダーシップ(SDL)の開発・実践プロジェクト
研究所名	ソーシャルデザインリーダーシップ研究所(所長 人間社会学科 松下慶太准教授)
設置開始	2019.4.1
設置終了	2022.3.31

<研究業績報告書>

今年度の研究計画の概要

ソーシャル・デザイン・リーダーシップ(以下、SDL)について、ソーシャルデザインについて国内外の事例収集、また Design Attitude、Product Service System などのデザイン・マネジメントにおける理論的枠組みおよびリーダーシップ研究における理論的枠組みを援用しつつ SDL 概念を試作し、国内外学会・研究会などで報告しつつ、フィードバックを受け精緻化を行う。またそれと並行して、SDL 概念の基礎的資料となりうる Design Attitude、リーダーシップ意識・行動について質問項目を作成し、PBL 履修生を中心に PBL 事前・事後のアンケート調査による量的把握を行う。また 2020 年以降、SDL を軸とした PBL 展開のため地域・企業をクライアントとして課題の抽出を目的とした事前協議・ワークショップの実施を行い、準備を進める。

今年度の研究実績

ソーシャルデザインの国内外の事例収集について、青森県大間町、徳島県神山町、和歌山県白浜、鹿児島県奄美大島、北海道東川町、インドネシア・バリ島などで実際に現地での取り組みを進めている関係者への聞き取り調査を行いどのようなリーダーシップの発揮の仕方がありうるのかを調査し、さらに次年度以降の協力体制を整えた。

また Design Attitude、Product Service System などのデザイン・マネジメントにおける理論的枠組みおよびリーダーシップ研究における理論的枠組みを援用しつつ SDL 概念を試作し、同志社女子大学・上田信行教授を中心とした研究会、ワークショップで報告し、フィードバックを受けて精緻化を進めた。

また東京でのデザイン・ワークショップ、また渋谷区との連携で街歩きワークショップなども開催し、学生がソーシャル・デザインにどのように関わるか、についての体制を整えることができた。

現在までの進捗状況
1. 事業計画の進捗度について（①～④のいずれかを選択してください） ①順調である ②おおむね順調である <input checked="" type="checkbox"/> ③やや遅れている ④遅れている
※上記の進捗度を示す事由を記載のこと。「やや遅れている」「遅れている」とした場合は、改善点を記載。（計画の見直しが必要な場合はその内容も記載すること）
ソーシャルデザインの国内外の事例収集、SDL 概念の試作、学生の活動体制の整備などはおおむね計画通りに進捗している。一方で、コロナウイルス感染症拡大への集会活動の自粛の影響で、Design Attitude、リーダーシップ意識・行動について質問項目の作成、2020年以降のSDLを軸としたPBL展開のため地域・企業をクライアントとして課題の抽出を目的とした事前協議・ワークショップの実施、について2020年度に延期し、オンラインでの実施も検討しながら行う予定である。
2. 目標達成状況について（①～④のいずれかを選択してください） ①達成した ②おおむね達成した <input checked="" type="checkbox"/> ③十分達成されたとはいえない ④未達成である
※上記の目標達成状況を示す事由を記載のこと。「十分達成されたとはいえない」「未達成である」とした場合は、改善点を記載。（計画の見直しが必要な場合はその内容も記載すること）
事例収集を含めた「理論的枠組み構築」、渋谷キャンパスにおけるPBL科目（文学部「FSP」、人間社会学部「ソーシャルデザインプロジェクト」、共通科目「実践プロジェクト」などを想定）での「SDL実践」は概ね達成できたものの、コロナウイルス感染症拡大への集会活動の自粛から2020年における「SDL実践」についての打ち合わせは延期せざるを得ない状況になったため一部達成できていない。2020年度中に延期あるいはオンラインも検討しながら打ち合わせを行う予定である。

取り組み状況について								
1. 組織的な取り組みができているか（①～④のいずれかを選択してください） <input checked="" type="checkbox"/> ①できている ②おおむねできている ③あまりできていない ④できていない								
※上記を示す事由を記載のこと。「あまりできていない」「できていない」とした場合は、改善点を記載。								
学外メンバーも含め研究員メンバーがそれぞれ事例収集、ワークショップの実施などを分担して行っており、組織的な取り組みができていると考える。								
2. 研究所メンバーの活動状況について								
※分担された役割を含めた活動状況をメンバーごとに記載してください。								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>教員氏名</th> <th>活動内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粟津 俊二</td> <td>調査項目の試作</td> </tr> <tr> <td>原田 謙</td> <td>（ソーシャル領域での）渋谷区との連携フィールドワーク、ワークショップの実施</td> </tr> <tr> <td>下山 肇</td> <td>（デザイン領域での）ワークショップの実施</td> </tr> </tbody> </table>	教員氏名	活動内容	粟津 俊二	調査項目の試作	原田 謙	（ソーシャル領域での）渋谷区との連携フィールドワーク、ワークショップの実施	下山 肇	（デザイン領域での）ワークショップの実施
教員氏名	活動内容							
粟津 俊二	調査項目の試作							
原田 謙	（ソーシャル領域での）渋谷区との連携フィールドワーク、ワークショップの実施							
下山 肇	（デザイン領域での）ワークショップの実施							

館野 泰一 (立教大学 経営学部准教授)	リーダーシップに関する調査・研究、および海外事例調査
----------------------------	----------------------------

成果について
1. 波及効果が見込まれる成果が得られているか
<p>※上記の状況を示す事由を記載のこと。(波及効果については、主に事業終了後の発展を問うものであるため、設置申請書で示した波及効果および教育又は社会に還元するために得られる知見に対し、現在の見込みを記載してください。申請時との差異がある場合も、その旨記載してください。)</p>
<p>企業との人間社会学部新入生セミナー、渋谷区との連携フィールドワークを実施したことに加え、「ソーシャル・デザイン・プロジェクト A」ではフードロスなど SDGs を意識した課題を設定して実施するなど、S-SAP のモデルとなる下地は徐々にできつつある。</p> <p>また、大学におけるプロジェクト授業への社会人、中高生見学者の受け入れを拡大したり、2020 年 1 月には渋谷区で働くをテーマにした併設の中学校と首都圏私立女子中学校との合同ワークショップを開催するなど、高大連携への効果も期待できる準備が整いつつある。以上のことから、事業終了後の波及効果が見込まれる成果が上がっていると判断する。</p>
2. 雑誌、学会発表、図書など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出版：OECD 『OECD Skills Outlook 2019』(出版作業中) ・ 発表：mct 「Playful Network」研究会

※各項目の枠は必要に応じて広げてください。